

ぎのわん地域づくり塾の様子をお伝えします

NEWS LETTER Vol. 4



ぎのわん地域づくり塾

令和元年度
- 第4期 -

主催：宜野湾市／宜野湾市教育委員会／宜野湾市社会福祉協議会
共催：沖縄国際大学／琉球大学 運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく

第4回 スキルアップ講座「企画」の立て方とファシリテーション

日時：2019年8月28日（水）18:30-21:00

講師：まちなか研究所わくわく事務局長 宮道喜一氏

場所：沖縄国際大学 3105 教室

参加者

塾生 22名

一般 8名



今回の講座は、スキルアップ講座として、「企画」の立て方とファシリテーションについて学びました。4期生以外にも社会福祉協議会などからの参加もありました。これまでに経験した「嫌だなあと思う会議の場面」について各チームで出し合い共有しました。そして、話し合いの進め方、ファシリテーションの基礎について、学びました。最後に、印象に残ったことやチームの中で大切にしたいことを話し合いました。

<最終発表に向け考慮すること>

- 限られた「資源」の中、「誰」と「どのような機会」を持ち進めると実現できるか。
- 企画の6W2H（ニーズ：なぜ、誰のために、どこまで。手法：何をどのように、いつ、どこで。資源：誰が、いくらで。）
- プレゼンテーションは、相手の判断を助ける情報のプレゼント。

<ファシリテーションの基礎>

- 対話による、共有、共感があつて、はじめて協働、共創することができる。
- 人は、集い、関わることで「自主性」や「主体性」が生まれ「当事者意識」が芽生える。
- 話し合いの場における「ファシリテーション」は参加や発言、相互交流がしやすい状況をつくること。
- ファシリテーターは、そんな状況が生まれるような準備、場づくりをし、進行する人。

次回（第5回）の講座は・・・

内容：フィールドワーク

地域インタビューと他地域の実践から学ぶ

日時：9月1日（日） 9:30～15:30

場所：嘉数小学校地域連携室

ゲスト：大城 喜江子氏

（浦添市森の子児童センター一館長）

※台風の際はホームページをご確認ください



▲これまでに経験した「嫌だなあと思う会議・話し合いの場面」について全体で共有した。

- 共有→拡散→混沌→収束→共有という話し合いの段階があり、拡散の幅が広がることで、参加者の納得度が高まる。
- 会議の機能には、「伝達」「調整」「創造」「決定」がある。
- ファシリテーターの役割は時間内で進行し、参加を促し、到達目標を達成すること。
- ファシリテーターはよく聴く、信頼関係をつくる、中立の立場で進行する、多様な視点を受け入れる、等が大切。

<基礎スキル>

- 場の雰囲気づくり—会場レイアウト、音楽、お菓子の準備など安心して話せる場。
- 書くこと—見える、残る、プロセスの共有。
- 聴くこと—小さい声も受け止める。沈黙を恐れない。問いをなげかける。
- 収束のプロセス—分類、整理する、選択肢を作り、評価をしていく、中間での振り返りで整理する。
- 振り返り—どこまで到達し、何を積み残したのかを確認する。



<受講生の声>

- ファシリテーションの基礎を学ぶことができた。今後の活動に活かしていきたい。
- 「聴く」ことの重要性を学習した。
- 意見を振り返りながら、最後に眺めてみることの大切さを学んだ。
- 場の雰囲気作りも勉強になった。
- 議事録の大切さを再確認した。